

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201039		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ松本西ふれあいの家		
所在地	松本市笹賀5514-6 (電 話) 0263-29-1884		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年10月5日

【情報提供票より】(平成19年 8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 17人, 非常勤 3人, 常勤換算	18人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	25,000円. 冬季のみ2,000円増	
敷 金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年 8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	2	要介護 2	5		
要介護 3	8	要介護 4	2		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 85.05 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相澤病院、坂本歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは松本市内の南に位置し、信州まつもと空港まで車で15分ぐらいの静かな場所にあり、田園に囲まれ、2階からは北アルプスが一望出来る。身体機能維持の取り組みとして、色々工夫された体操などが用意されている。個々の入居者を尊重する理念の他に、毎年のテーマを掲げ、サービスの質の向上に取り組んでいる。出来る限り家庭と同じ生活が送れるように、希望があればお墓参りにお連れしたり、入居前のかかりつけ医を変更せず通院介助の支援をされるなど、入居者を尊重したケアが行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善課題であった「入居者の権利についての明示」については、契約書の中に明記されていた。道路に面し、交通事故等の危険回避のため「鍵を掛けている」ことについても、運営推進会議、スタッフ会議等でも検討されているので今後に期待したい。危険物の安全管理についても見直しがされていた。家族からの情報収集も積極的に行い、介護計画に反映されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 年に2回自己評価を行うことによりケアの気づきができ、サービスの質の向上に活かされている。更なる質の向上が期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 評価で指摘を受けたことの改善に向けた取り組み、地域でのホーム便りの回覧による交流・理解を深める取り組み、認知症ケアの介護者教室の受託など、検討課題の改善に期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時の声掛けや月に1回発行のふれあい通信、担当者による個々へのコメントで日頃の様子を知らせたり、来訪が無理な家族には電話をするなど、家族とのコミュニケーションに心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の清掃活動などに参加したり、ホームの行事に地区の方が見えたり、地域との交流は行われている。防災訓練などにも声掛けをし、地域全体で連携が取れるような体制を整備されることが望ましい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を掲げられている。更に毎年のテーマもスタッフで話し合われ取り組みが行われている。	○	理念の中に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容も掲げられることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやカンファレンスで管理者を中心に理念を共有し、スタッフの都合ではなく、一人ひとりを大切にその人らしい生活を送れるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者とスタッフで地区の清掃活動や夏祭り・ふれあい広場のカラオケに参加したり、ホームの敬老会・納涼祭に地区の方が参加するなど、交流が行われている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年から全スタッフによる自己評価を年2回行い、改善すべき点を確認し、サービスの向上に取り組んでいる。また、管理者・職員は外部評価の結果を受け止め、改善に取り組んでいることが窺えた。		

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みを報告し、参加者より頂いた意見を参考にサービスの向上に取り組んでいる。会議の開催については、参加者と充分話し合い、開催の時期・回数などを決めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との行き来は、運営推進会議ぐらいに留まっている。	○	運営推進会議に留まらず、認知症ケアに関する介護者教室の受託、介護相談員の受け入れをするなど、市と関わる機会をもちサービスの質の向上に取り組まれることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、日頃の暮らしぶりの写真などを盛り込んだホーム便りを郵送している。金銭管理帳を家族に報告し、確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などには声掛けをするなど、意見を聞くようにし、ケアの向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員との馴染みの関係が築けるように、職員の異動はなるべく避けている。異動があった時には、家族にも顔写真入りのお便りを発行しお知らせしている。入居者にも説明し紹介をしている。		

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員の段階に応じた社内研修・外部研修の告知をしている。研修終了後はレポートを書き、資料他を参考にし報告会を開いている。職員は相互の情報の共有化を図り、トレーニングを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの管理者が月に1回集まり、交流の機会を通じて情報交換をしている。ホーム同士で評価していく方向で、サービスの向上に取り組み始めたところである。	○	グループホーム同士のネットワークづくりが始まったばかりで、活動と言えるところまで進んでいないが、取り組みに力を入れ、更なるサービスの質の向上に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後は、職員が隣で付き添い声掛けをするなど、雰囲気馴染めるように家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である入居者から、年中行事のお料理を教えて頂くなど、一人ひとりの力量を発揮できる場面づくりがされている。職員の趣味を講座として開くなど、お互いに学び合いながら支え合う関係が築かれている。		

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昼寝をする人、テレビを見る人、地区のふれあい広場のカラオケに参加する人など、一人ひとりが思い思いに自由に生活されている。また、お盆にお墓参りを希望される方には応じており、出来るだけ家庭での生活に近づけるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録の中から月に1回支援経過記録として課題を分析し、本人・家族の希望も聴きながら、職員全員によるサービス担当者会議で介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しされている。状態の変化によっては、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居住環境を生かし、認知症対応のデイサービスも行っている。		

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望するかかりつけ医に受診する時は付き添うなど通院の支援をしている。また、事業所のかかりつけ医に変更する際には、本人と家族に説明がされ同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合の看取りに関する指針も明示されており説明もされているが、内容が入居者サイドに立ったものでないように思われる。	○	「重度化した場合における対応に係る指針」も明示されているが、ターミナルケアについて本人・家族からの希望を尊重し、もう少し具体的な内容であることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	さりげない声掛けをするなど、プライバシーを損ねないよう心がけている。職員の地声の大小にもよるが少々大きな声を出す場合がある。	○	プライバシーを損ねる事がないよう、接遇についての勉強会を開くなど、プライバシー保護に取り組まれることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを出すために、個々の趣味が継続されるよう雰囲気作りをしている。買い物や散歩など馴染みの場所に出かけたり、生活歴を大切に、お墓参りにお連れするなどして、希望にそった支援をしている。		

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・片づけ・食器洗いなど、一人ひとりの力量に合わせて一緒に行っている。職員も同じ食事を一緒に食べながら弾んだ会話をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数・時間などの特別な決め事はなく、希望にそって入浴できるように支援が行われている。嫌いな方には、時折声掛けをし、最低でも週に2～3回は入浴し、清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、趣味や楽しみ事の継続、力量が発揮できる役割など、場面づくりへの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天気などに配慮し、散歩・買い物・ドライブなど外出の機会を多く持つようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に面しているため、玄関だけは鍵を掛けている。ユニット毎の入り口はオープンにされている。	○	前回の外部評価でも指摘を受けており、運営推進会議でも議論がされ、職員の見守りの強化、センサー設置等の検討が行われている。立地条件にもよるが、出来る限り鍵を掛けない工夫が望ましい。

ツクイ松本西ふれあいの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練が行われている。	○	夜勤の職員が1ユニット一人の時などを想定し、災害時の対応の手順の確認など、入居者が避難できる方法を身につけることが望ましい。地域との連携も求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事にムラのある方には、食事量をチェックしている。水分も声掛けをし、対応している。	○	栄養のバランスを確保するためにも、個々の食事と水分の摂取量を記録し、体調の変化等がすぐに把握できる仕組みづくりが求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広々としており、一人ひとりが自由に居心地よく過ごせる工夫をしていることが窺えた。居室以外にも一人、或いは気のあった人同士で過ごせる場所も用意されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はなく、それぞれが使い慣れたタンスや馴染みの身の回りの物を持ち込まれており、居心地よく過ごされていることが窺えた。		

※  は、重点項目。